

The Young Women's
Christian Association

YWCA

6

〈第33総会期主題聖句〉

平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉

女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切に社会

〈ミッション〉

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉

キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

JUNE
2024

No.780

www.ywca.or.jp

沖縄を伝える人

「基地を笑え! お笑い米軍基地」

主宰・沖縄お笑い芸人 小波津正光
(まーちゃん)

写真提供 / FECオフィス

「基地のある日常」を「コントに仕立てて共感の笑いを誘う、
沖縄お笑い芸人。
自衛隊によって戦争準備が進む島々の現状を映像作品にして
発信する、映画監督。
本土から見えないリアルな「沖縄」をそれぞれの形で伝え続けて、
20年になる。
観る者の心を揺さぶる2人の表現者の想い、
そして今、伝えたいことは——。



©森の映画社



「琉球弧を戦場にするな」

ドキュメンタリー映画監督 影山あさ子

Coming Soon



基地を笑え！ お笑い米軍基地 2024

20年目に突入する「お笑い米軍基地」の新作公演が、6月15日・16日の那覇市を皮切りに、沖縄市、名護市で開催。時事ネタを材料にエッジのきいたコントを繰り広げる「新作公演」のほか、お笑い米軍基地初心者も楽しめる「傑作選公演」を上演する。チケットはイープラスなどで販売中。

詳細はこちらから



profile

こはつ・まさみつ

1974年生まれ、沖縄を愛し続ける永遠のうーまー。演芸集団 FEC 所属のお笑い芸人「まーちゃん」として人気を博す。「お笑い米軍基地」シリーズ企画・演出・脚本・制作総指揮ほか、テレビ、ラジオ、出版、音楽など幅広いメディアで活躍。脚本・演出を担当した RBCi ラジオドラマ復帰 40 周年特別番組『40 才のタンカーユーエー』が 2012 年日本民放連盟賞ラジオエンターテイメント番組最優秀賞受賞。第 50 回ギャラクシー賞ラジオ部門優秀賞受賞。

写真提供 / FEC オフィス

縄の新聞を取り出す。さらに紙面を広げて舞台上で掲げる。

「オリンピックと言って盛り上がっているのは、いったーナイチャーびげーんどおー！（お前ら本土の人間だけだよー）アテネでは聖火が燃え上がって盛り上がってるかもしれないけど、沖縄では米軍ヘリが燃え上がり盛り上がってるばーよー！」

興奮しながらウチナーグチ（沖縄言葉）混じりでお客さんに怒りをぶつける僕。するとお客さんはまさかの大爆笑！ さらに畳みかける。

「いったーわじつたら（お前ら怒ったら）沖縄の米軍基地を東京の〇〇（自規制で伏字にしておきます笑）に移設するからなあー！」

僕らにしかできない笑い
言えない言葉がある



放送コード無視どころか、ある一部の人たちから刺されてもおかしくないほどの暴言。この言葉に反発するどころか拍手喝采で笑い転げるお客さん。その後はもうメチャクチャ。怒りに任せ客席に降り、お客さん一人ひとりに説教を始める僕。そんな僕の首根っこをつかみポコポコに殴りつける相棒。ハチャメチャな漫才にお客さんは大喜び。もちろん、これはすべて僕の計算です。笑いとはギャップ、落差なのです。お笑いライブなのに笑わせるどころかお客さんにケンカをしかける僕ら。見たこともない新聞をいきなり広げパワーと騒ぎたてる、芸人とは言

い難しいギャップに、お客さんは思わず笑ってしまった。

この漫才をきっかけに僕はある手応えを感じます。

「もしかすると、これが僕ら沖縄芸人にしかできない笑い、僕ら沖縄の人間しか言えない言葉なのかもしれない」これをきっかけに翌 2005 年から基地問題や戦争、沖縄や日本で今起きている、難しいと思われる事柄を笑いの題材にした「お笑い米軍基地」という舞台がスタートします。

情熱をもって 面倒くさいことしよう



正直この場だけで僕がやっている事と、すべての想いを記すのは難しいで

す。いや、実は簡単なのかな？

僕が伝えたいのは、

「この文章を読んで、興味を持ってほしい」

それだけです。

反対だろうが賛成だろうが、右だろうが左だろうが、前だろうが後ろだろうがなんだっていい。興味を持ってもらうこと。それがすべて。その想いだけで僕はこの舞台を、この沖縄のお笑いを続けています。

そして最後にもう一つ。僕が伝えたいのは、情熱をもって面倒くさいことをやってみてください。

「大事なものは、たいてい面倒くさい」スタジオジブリの宮崎駿さんの言葉ですって、俺の言葉じゃないのかーい！

映像で伝える

大手メディアは伝えない 私たちがやるしかない

ドキュメンタリー映画監督 影山あさ子

基地だらけになる島々
見詰め続けて20年

沖縄で撮影を始めたのは、2004年。辺野古では、住民たちがカヌーと身体一つで必死に米海兵隊の新基地建設のための作業を止め続けていました。翌年、辺野古の沖合を埋め立てる新基地計画は白紙撤回され「辺野古見直しへ」と報じられた喜びもつかの間、日米政府が合意した日米軍の再編計画により、直ちに現在進行中の沿岸を埋め立てる新基地計画に置き換えられました。イラクへ自衛隊を派兵した小泉政権の時代です。この再編計画で打ち出されたことは、「日米の軍事的一体化」。目下の同盟国、

日本の自衛隊が、アメリカの戦争のために一層の役割を担うということです。20年後の今、辺野古の新基地はできません。しかし、九州の南から台湾にかけて弓なりに連なる琉球弧の島々は自衛隊の基地だらけになりました。

アメリカの戦争のために
日本を戦場にする準備

2016年に与那国島に陸上自衛隊のレーダー基地がつくられ、沿岸監視部隊が配備されました。19年には宮古島と奄美大島に、23年には石垣島にミサイル基地がつくられました。今年は沖縄島にも新たに陸自のミサイル部隊が配備されました。種子島の離島、馬毛島に建設中の基地は陸海空の自衛隊

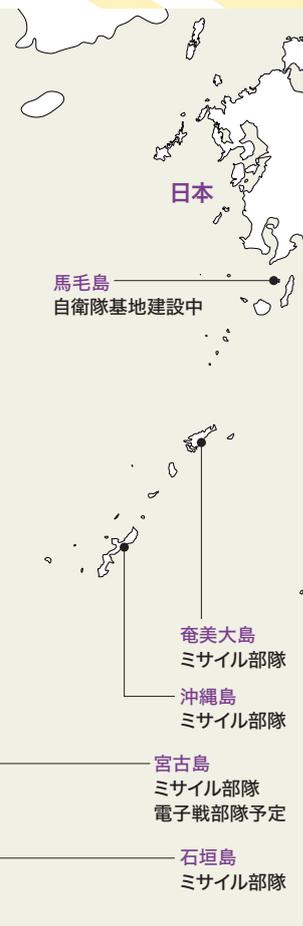


に加え、米軍の空母艦載機の離着陸訓練場とされます。すでに基地のある島々も、基地の拡大が止まりません。前線司令部とされる宮古島には今年度、電子戦部隊が新たに配備される予定です。与那国島には、新たにミサイル部隊の配備が予定されています。台風から島を守る貴重な湿地やリーフ（外礁）を浚渫し、自衛隊や海上保安庁が自由に使える巨大な港をつくる計画も進められようとしています。日米の共同軍事演習は絶え間なく続けられ、野戦病院の設置や負傷者の搬送の訓練も行われています。搬送先は本州の病院です。一般の病院がすでに動員（徴用）されているのです。訓練には遺体の仮埋葬もあり、宮古島の公共施設に遺体の収容袋が設置されています。基地も演習場もない徳之島でも、上陸演習やパラシュート降下訓練が繰り返されています。地図で島々の位置関係を見てくださ

い。仮想敵国・中国に対する最前線基地を琉球弧に構築するという戦争準備、戦争計画の形がくつきりと浮かび上がります。計画されている次の戦争は、日本の自衛隊がアメリカのために、日本の国土を戦場に、核保有国・中国と対峙する戦争。その主戦場が琉球弧なのです。「基地ができれば軍隊が来る、



海岸で離島奪還のための上陸訓練をする自衛隊（2023年3月） ©森の映画社



軍隊が来たら戦争になる」と話している。沖縄戦の体験者の言葉は、全く正しいと感じています。

島の人たちにも、私たちの暮らしの中にも、友人であり、大事なお客さんであり、ビジネスパートナーである中国を相手に戦争すべき理由はありません。しかし、尖閣や台湾を理由に危機をあおり、中国を封じ込めるための戦争を準備するアメリカ、そのアメリカと一体となった日本政府の意思は確固たるものです。

有事になったら 各自でなんとかして

国民保護法により、有事の避難は自治体の責任とされ、自衛隊の役割ではありません。各地で避難訓練が行われていますが、沖縄県内で人口最多の沖縄島は屋内避難。宮古、八重山の住民ら12万人は、船や飛行機で九州に避難するという計画です。国の指示を受け、沖縄県も市町村も、真面目に避難計画づくりを進めています。



台風一つで何日も孤立する島々です。ミサイルが降る中を運良く脱出できても、有事の日本列島のどこが、安全な場所になるのでしょうか。災害も頻発し、原発も多い国です。また、私たちの暮らす地域に避難者を受け入れ、共に生きていく準備と覚悟はあるのでしょうか。

与那国町では有事の際、住民に避難費用を支給する条例が2年前に議会で可決されました。糸数健一与那国町長がその記者会見で「各自でなんとか生き延びてくれ」と語ったのは衝撃的でした。仕事は、家は、牛は、畑は、財産はどうなるのでしょうか。果たして島に戻れるのでしょうか。「島を守ると言ったのに、ほとんどん島を出ていく話になるのは、どういうこと」（与那国住民）でしょう。

「基地ができれば、標的にされる」と多くの住民が反対してきた基地建設は、それ自体さまざまな問題をはらんでいます。宮古島を例にとれば、基地の有害物

質が島の生活用水である地下水を汚染すれば、それだけで暮らせなくなります。最新鋭のレーダーの電磁波は、ヨーロッパの安全基準の2000倍を超える深刻さで、周辺の住宅や農地を汚染しています。海上保安庁の巡視船による機関砲の誤射事件、乗員10名が死亡した陸自ヘリの墜落など重大事故も起きています。駐屯地の用地取得を巡っては、下地敏彦前宮古島市長は汚職で有罪となりました。

うるま市に計画されていた自衛隊の訓練場計画を断念させたことは、最近の明るいニュースです。住民たちは今日も抗い続けています。

戦争を止めるのは今、 「伝える人」になろう

島々の軍事化の様相も、住民の危機

感も、休みなく続く日米の軍事演習も、大手メディアは伝えません。伝えないなら、私たちがやるしかない、馬毛島から与那国島まで琉球弧での撮影を続けています。5月末には1時間程の作品（8面参照）として完成します。

戦争を止めるのは、戦争が始まる前、今しかありません。そして戦争を止めるのは、本気の意思と行動です。市民一人ひとりの行動が、未来を救う希望です。この希望を大きなものに変えていくために、この作品を作っています。ぜひ、上映会を開いて皆さん自身が「伝える人」になってください。心からお願いします。

（2024年5月3日現在）

※武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律



profile

かげやま・あさこ

北海道在住。辺野古新基地建設計画のボーリング調査が始まった2004年から藤本幸久監督と共同で、沖縄の抵抗の現場で取材を続けて15のドキュメンタリー作品を製作。主な作品に、オスプレイ配備に抗して普天間基地を封鎖した沖縄の闘いを描く『ラブ沖縄』（2012年）、辺野古新基地建設現場での抵抗を描く『庄殺の海』（2015年）、オスプレイパッド建設に抵抗する市民を1000名の警察・機動隊が制圧した『高江一森が泣いている』（2016年）、陸上自衛隊のミサイル基地建設に抵抗する『宮古島からのSOS』（2018年）など。

日韓ユース・カンファレンス報告

未来に向けて共に 平和をつくりだそう



目標に向かって絆を深めた日韓のユースたち

日本と韓国のYWCAが共催する「日韓ユース・カンファレンス」は、両国の若い世代が連帯して平和を目指すプログラム。1993年に始まり、21回目となる2024年は、冬の韓国・ソウルで行われ、日本から9名、韓国から10名のユースが参加しました。

2月13日 出会う

プログラムの初めに、今回のカンファレンスのテーマ「女性・平和・安全保障(WPS)」と日韓のフェミニズムとジェンダー葛藤について、両

国の問題に詳しい社会学者のチョ・ギョンヒさんの特別講演を聴きました。その興奮冷めやらぬままユースたちは、WPSについて調べまとめたことをお互いに報告。文化交流では、かるた遊びなどで大いに盛り上がりました。景品の駄菓子を前に、「どれにしようか」と子どものようにはしゃぐユースたちの微笑ましい光景も見られました。

2月14日 つながる

フィールドトリップとして、ソウル市内にある「戦争と女性の人権博物館」で



交流会ではみんなでソーラン節を踊って盛り上がった

日本軍「慰安婦」にされた方々の証言に耳を傾け、深い学びを得ました。その後、「日本軍性奴隷制問題解決のための定期水曜デモ」に参加。日本のユースメンバーからはこんな声が聞かれました。
「戦争を過去のものとしないうため、自分たちが平和構築者として行動すること」「フェミニストとして何かとつらいことがあるが、この日韓の連帯を覚え、より良い社会を形成したい」
また日韓のユースで「変わらない事実」をうたったハンゲルの歌を合唱し、YWCAの連帯を実感する時間を持ちました。この日の特別講演は、韓国YWCA ジェンダー平等委員会会長のキム・ウンギョンさんが登壇。「女性の政治参加がWPSにどのように役立つか」という話

2月15日 立ち上がる

から、平和構築プロセスに女性が関わることの影響を学びました。2日目の最後は、小グループに分かれ明洞の街を散策。一緒に食事や買い物を楽しみ、おしゃべりに花を咲かせました。

いよいよ最終日。それぞれのYWCAの社会活動について報告が行われました。続いて特別講演では、気候問題に取り組む「エクスティンクシオン・レベリオン」の活動家のハチドリさんを迎えて、ユース主導の社会運動の重要性と共同体での相互ケアの大切さを共有しました。最後にユースたちは、これまでの学びを生かす「アクションプラン」を作成し、「今後の日韓の連帯に向けた平和活動を共に考え行動していきたい」旨を力強く発表しました。

閉会では、お土産の折り鶴キーホルダーと地域限定のご当地お菓子を渡し、互いに別れを惜しみながら無事プログラムは終了しました。

このプログラムの経験を通して、参加者の中に平和の種が蒔かれ、これからの経験で芽吹き、いつかどこかで花を咲かせ、次世代に継承されることを願います。

日本YWCA職員 島舞衣子

CSW68派遣報告

自分の物語を語り、紡いだユースたち

毎年3月、ニューヨークの国連本部で開催されるCSW（国連女性の地位委員会）。女性の地位向上を目的とした国連加盟国のこの会議には、1000以上のNGOが参加し、政府や国連機関に情報提供や提言を行います。日本YWCAは、国際的なリーダーシップ養成の機会として、毎年ユースメンバーを派遣。今年は3月10日から16日までの日程で、7名を送り出しました。



国際女性デーに想いを寄せたコロンビアスポーツウェアジャパンの限定Tシャツを着て想いをつにした
*同社よりTシャツの売り上げの一部を日本YWCAにご寄付いただきました

生きづらさを語る葛藤を超えて

昨年よりもいくぶん暖かい3月のニューヨークで、約1週間のエキサイティングな日々を過ごしたユースたち。ハイライトとなるパラレルイベントでは、「日本の若い女性が抱える生きづらさを考える - The life stories of disempowered young women: hardship and leadership in Japan」と題したプログラムを企画・実施し、好評を博しました。

このプログラムのテーマは「自分の物語を語ること」。イベントに集まった約40名の参加者を前に、他の誰でもない、自分の生きづらさを語ることに葛藤を抱えたユースもいました。それもそのはずです。家父長制、資本制社会において、多くの人が、男性目線で語られる物語・歴史・量的データを根拠に話すことに慣れてしまい、女性としての



CSWの期間中、さまざまな会議に参加した

自分に何が起きてきたか、その経験を自身が大切だと思うこと、世の中に発信しても良いと思うことが難しいからです。そうした意味で、今回の発表内容はよりフェミニスト的だったと言えます。

イベントではディスカッションの時間を多くとり、さまざまな国の参加者たちと輪になってお互いの話に耳を傾けました。参加者アンケートでは、「相互交流的でとてもよかった」、「経験に勝るデータはない、素晴らしかった」などの感想が寄せられました。

仲間と共に新たな物語へ

無事に全日程を終えたユースメンバーからは、初めて国連内部に入るワクワクした気持ち、ニュースでよく見る本会議場に足を踏み入れた感動、世界中の人の考えに触れて感じたインスピレーション、さまざまな疑問をメンバーの間でシェアできた嬉しさ、世界各国のYWCAメンバーのシスターフッドに接して感じた温かさ……。心の躍動を伝える声がたくさん聞かれました。

物価の高いニューヨークで、不自由さも感じたでしょう。さまざまな人が話す、個性のある英語漬けの日々で、疲労を感じることも多かったでしょう。時には価値観を揺さぶられ、戸惑うこともあったはずですが、でもそれ以上に得たものが多くあったと信じています。CSWが終わっても、学びは続きます。ここで得た仲間とYWCAで切磋琢磨し合い、社会変革を共に進めていってほしいと心から願います。

日本YWCA職員 島舞衣子



2023年度 寄付報告 (2023年4月1日～2024年3月31日)



- 日本YWCA賛助費 1,464,500円
- ピースメーカーズ募金 1,885,877円
- 平和教育寄付 150,000円
- 東日本大震災被災者支援募金 1,414,115円
(うち、カー口ふくしまサポーター 497,500円)
- 災害時支援募金 4,420,326円
(パレスチナYWCA支援、ウクライナ支援、ミャンマー支援、
能登半島地震被害者支援含む)
- オーリーブの木キャンペーン募金 918,000円

【 2024年度もよろしく願っています 】

※当法人へのご寄付は、税額控除の対象となります。
 ※メールまたは振替用紙通信欄で次の情報をお知らせください。領収書を発行します。
 ①振込日 ②金額 ③お名前 ④ご住所 ⑤寄付項目
 ⑥お名前のアルファベット(オーリーブの木キャンペーンへのご寄付のみ)
 ※ご希望の寄付項目を必ずご指定ください。※年間3,000円以上のご寄付で、機関紙を送付いたします。

振込先 三井住友銀行 飯田橋支店 普通預金 1198743
 (口座名義) 公益財団法人日本 YWCA
 ゆうちょ銀行 〇一九支店(ゼロイチキューウ) 当座預金 23723
 (口座名義) 公益財団法人日本 YWCA

郵便振替 00170-7-23723 (加入者名) 公益財団法人日本 YWCA

上映して伝えよう!
『琉球弧を戦場にするな』

ドキュメンタリー映画監督の影山あさ子さん(4～5面)の最新作『琉球弧を戦場にするな』がDVDで発売中。奄美大島、馬毛島、宮古島、石垣島、与那国島などの島々の現状、抵抗する住民たちの姿、米軍と自衛隊がしていること、しようとしていることなど、本土から見えない現実を伝えている。誰でも、どこでも、何回でも上映できるように、定価には上映権が含まれている。

- 製作著作 森の映画社
- 上映時間 55分
- 定価 1万円(上映権を含む)
- 申込み・連絡先

森の映画社札幌編集室
 morinoeigasha@gmail.com
 TEL/FAX 011-206-4570



ご協力ありがとうございます

- 賛助費**
 小野田照代 黒木順子 郡恭子
 高橋礼子 鶴崎祥子 平井祐美子
 牧甫
 日本キリスト教団御影教会
 日本基督教団代々木上原教会
- ピースメーカーズ募金**
 (平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)
 嘉屋陽子 木田頼子 黒木順子
 鶴崎祥子
 木岡ファミリー基金
 日本基督教団六角橋教会
 東洋英和女学院 中高部宗教委員会
 広島女学院 中学高等学校
 公益財団法人名古屋YWCA
- 災害時支援募金**
 (国内外の災害被災者支援)
 鶴崎祥子
 学校法人東洋英和女学院 宗教教育委員会
 東洋英和女学院 中学高等部 母の会
 公益財団法人福岡YWCA
- オーリーブの木キャンペーン募金**
 小笠原純恵 黒木順子 鶴崎祥子
 日本基督教団代々木上原教会
 釧路YWCA
 一般財団法人函館YWCA
- ウクライナ支援**
 大橋文雄 大橋静子 鶴崎祥子
 日本基督教団静岡 番町教会 子ども
 の教会
 フィッシャー幼稚園
 一般財団法人函館YWCA
 公益財団法人東京YWCA
 公益財団法人神戸YWCA
- パレスチナYWCA支援**
 上野真由美 鶴崎祥子 牧甫
 青山学院横浜英和小学校
 フィッシャー幼稚園
 一般財団法人函館YWCA
 公益財団法人神戸YWCA
 公益財団法人東京YWCA
- 能登半島地震被災者支援募金**
 生方正子 江崎勝典 大橋文雄
 大橋静子 笠嶋多希子 郡恭子
 齋藤純子 山口ふじ子 和田博子
 日本基督教団林間つきみ野教会
 平安女学院中学校・高等学校
 北海道クリスチャンセンター 聖歌隊
 釧路YWCA
 一般財団法人函館YWCA
 福島YWCA
 公益財団法人横浜YWCA
 湘南YWCA
 公益財団法人名古屋YWCA
 一般財団法人広島YWCA
- 東日本大震災被災者支援募金**
 鶴崎祥子
 日本基督教団軽井沢追分教会
 日本福音ルーテル大森教会
 大森ルーテル幼稚園
 学校法人東洋英和女学院 宗教教育委員会
 弘前YWCA
- カー口サポーター**
 會津昭代 赤澤ヒロ子 糸洲のぶ子
 稲葉和寿子 岩城紀代子 江崎啓子
 遠藤真理 大野綾子 貝塚好子
 片山淳子 鬼頭裕子 黒沼由利子
 小宮一子 金剛静恵 近藤恭子
 齋藤知子 雀部真理 佐藤恵津子
 篠田茜 島崎真奈美 高橋昌子
 谷合公江 俵恭子 辻川さとみ
 津戸真弓 鶴崎祥子 手島千景
 中島睦 中村紀子 中山美津江
 西田悦子 西本玲子 根本博子
 野崎斐子 野田雅子 芳賀美江
 橋本智香子 花盛静子 半澤敦子
 東平瑞江 久宗百合子 清塚典子
 藤谷佐斗子 藤原玲子 松村真理子
 松本光子 丸山泉 実生律子
 宮治陽子 山本千鶴 横川宏美
 吉田亜希 吉田曉美 吉田夏子

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
 Tel.03・3292・6121 Fax.03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 実生律子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | にお名前を送ってください / フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan